

●娘2人はいわきの方に残していますので、そうすると今は3ヶ所で暮らしているわけですね。今後4ヶ所になってしまうと4重生活になりますので、経済的な面でも苦しいです。

●困ったことといえば、仕事でこっちに来ちゃっているの、なかなか子どもの顔がみえない。子育てという視点からいえば妻に任せきりになるわけで、片親で育つようなものですから、そういった影響というのはどういった所に出るのか(心配です)。

●とくに県外の人だと、お母さん自身も周りにあまり知り合いもいなくて、お母さんの部分もケアしなければいけないし、子どもさんのこともケアしていかなければならないですね。

●(仕事を始めようとする時に)被災者という名前が載っているだけで、「いずれ帰るんでしょう」という話になるんです。

●農家の人はやっぱり農家しかできない。床屋なら床屋しかできないという、プライドじゃないですけども、そういうのを強くもっているんですね。

●自営業の中でいると、やはりサラリーマンと違って、<生きる糧>というのが仕事なので、それを親から取り上げちゃうと長生きしてもらえないと思うんです。

●俺も今回、(戻って)「商売をもう1回始めよう」と思っているんだけど、一番ネックなのは、俺一人で行かなければならない。子どもと女房らは行かないというわけ。それが困るんですね。

●本当に5年後、10年後、15年後帰れる環境になっているのかというのは見えないし、だから、「故郷をなくしたくない」という気持ちはあるけれども、本当に帰れるのか疑心暗鬼だし、どうやったら帰れる状態になるのかもよくわからないんです。



届けたい!わたしたちの「声」。

こちらで紹介しているのは、とみおか子ども未来ネットワークが2012年7月8日以来
富岡町民が避難している宇都宮市・いわき市・長岡市・郡山市・横浜市などで
これまでに7回開催してきたタウンミーティング(意見交換会)で寄せられた富岡町民の声のほんの一部です。

●夜ぼつんと(ひとりに)なった時に、やっぱり頭がさえてなかなか眠れないですね。夜中過ぎに、夜中から朝にかけて眠れないというような状態がずっと続いています。

●そもそも、(避難区域の)3分割というのが矛盾しているんだけどね。たとえば(年間)20ミリシーベルト以下のところは、すぐではないけれどもいずれ帰れるというふうに言っているけれども……。

●子どもだって我慢している。つらそうなので「泣いてもいいんだよ」って言ったら、「ワーツ」って泣いたんだよね。子どもにだって「10年間あまりの人間関係があるんだな」って、「それは子どもにとっては人生のすべてなんだ」って(思いました)。

●家族の送り迎えや一時帰宅、仮設(住宅)にいる親に会いに行くなどで、移動ばかりしている感じ。以前は高速道路なんて年に数回しか使わなかった(んです)。高速道路の無料化は、帰れない限り延長して欲しいです。それは<ぜいたく>ではないですね。

●中学生の女の子に「私は結婚して子どもを産めますか?」って言わせてしまう状況がおかしいです。

●(新聞報道にありましたが、どこかの偉い先生の)「福島の子どもは結婚してはいけない」という発言には、怒りを感じました……。



とみおか子ども未来ネットワーク

(ホームページ) <http://www.t-c-f.net/> (facebook) とみおか子ども未来ネットワーク

